

12月3日～9日は障害者週間です

# 働きたい人が 働けるように

12月3日～9日は障害者週間です。

この週間は、国民に広く障がいのある人の福祉について関心と理解を深めるとともに、障がいのある人が社会や経済、文化などあらゆる分野の活動に積極的に参加するために設けられたものです。

今回は、障がい者の就労について、実際に何人もの障がい者を雇用されている(株)駒月を取材し、現場の様子を伺いました。

障がいがある人もない人も、働きたいと思っている人が当たり前になれる社会をつくっていきましょう。

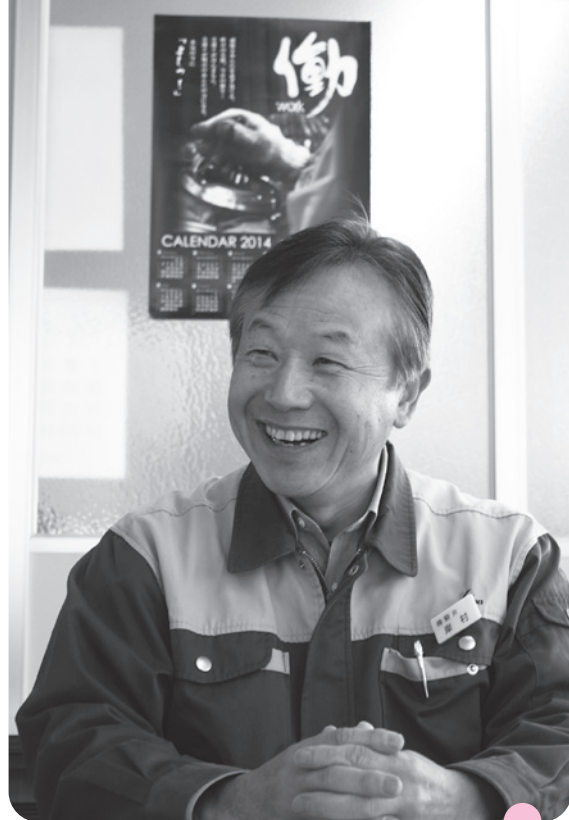


## ●働く人を支える応援団

働くことと生活は密接に関係しています。

特に障がいがある人が毎日しっかりと働くためには、職場や地域など身近なところに相談できる人がいると心強いものです。

周囲のすべての人が応援団の一員として関わっていきましょう。



▲株式会社 岸村源治社長

## Q 障害者を雇用するきっかけ

働き・暮らし  
応援センターと  
わたむきの里作  
業所の方が会社  
を訪れ、雇用を  
お願いされたこ  
とです。ただ最  
初は無理だと思  
っていて「でき  
るならどうぞ」

という感じで始めました。

## Q 雇用するまで

私たちはボランティアをしている訳ではありません。1人の従業員として雇いますので、雇用するまでの実習で、決められた時間内に決められた数をこなせるかの確認をしています。その後数か月をかけて、働き暮らし応援センターなど支援機関の方と協力をしながら仕事を覚えてもらっています。支援機関のサポートがあるから雇用ができるんです。

## Q 職場の変化

私は新人や障がいのある方が仕事で何度も失敗するところこそ改善するべきことだと思っています。そし

てその原因は教える上司にあることも多くあります。「障がい者だから難しい」などと思い込まず、冷静にみると仕事の改善点はたくさんあり、それを改善することで誰もが仕事をやりやすくなります。

## Q 本人の変化

ある方はずっと無表情だったのが、毎日笑顔であいさつをしてくれるようになりました。また、ある方は、お盆休みを利用して車の運転免許証を取得されました。製品の検査で見逃してしまいそんな製品の違いに気づいてくれた方もいます。会社が何かわえたということではなく、「出来なかったことが出来るようになる喜び」や「人とつながる喜び」が本人を変えたのだと思います。

# 物づくりを通して育ちあう



▲それぞれ責任のある仕事を任っておられます

## ● 縁の下の力持ち

### 働き・暮らし応援センター

働き・暮らし応援センターは、すべての人が地域でその人らしく働き暮らせることをめざし、障がいのある人の就労ニーズと企業の雇用ニーズを結びつける取り組みや、就労に伴う生活のサポートをされています。

そのため、取り組みは、障がいのある方の雇用が決まるまでではなく、雇用が決まり、働いてもずっと続きます。企業と障がいのある人の縁をつくり、企業も障がいのある人も、すべてが決して我慢することなく、「幸せ」になるためサポートをしておられます。

## ● あなたの職場でも

### 始めてみませんか

「この業務内容で働いてもらえるかな？」や「まず雇用の約束をせず、体験だけやってみよう」という企業の方、ぜひ働き暮らしセンターへ問い合わせしてみてください。

## ◆ お問い合わせ先

東近江圏域  
働き・暮らし応援センター

(近江八幡市上田町1288-1  
18 前出産業ビル2階)

☎ 36 12999

福祉課 福祉担当

☎ 52 6573